

# 令和5年度 将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成事業 検討結果

事業名 「瀬戸内産業芸術祭～Setouchi Art & Industry～」 実現可能性調査報告書

地域名 岡山県玉野市および瀬戸内海エリア

## 玉野市概要

中心部にある宇野港は、岡山県の玄関港であり、本州と四国を結ぶ海上交通の要衝として発展。造船業を中心とするものづくりの町として栄え、近年は瀬戸内国際芸術祭の影響もあり、アートを感じられる街になってきた。第3次産業へもシフトしている。

### キーとなる5つの地域

- みやま公園(来場者数100万人/宇野港周辺/田井工業地域(PowerBase)/玉周辺(造船)/山田地域(製塩)

## レガシー形成の最終着地点

- 瀬戸内産業芸術祭は宇野港が起点となり、アートと融合した産業観光（オープンファクトリー）が瀬戸内全体に分散。アートを入り口にもものづくりの壮さ、ライフサイクル産業へと挑戦する製造業の姿を体験。グリーンモビリティと再生可能エネルギーに囲まれ、多島美を満喫するウェルネス施設で癒される。瀬戸内エリアにおける産業、文化、芸術の振興によって、活力にあふれ、個性豊かな地域社会の発展に貢献するとともに、地域の観光を支える取組みをサポートし、国内外から多くの旅行者を惹きつける「世界から選ばれ続ける瀬戸内」となり、瀬戸内全体で年間数百万人規模の来訪者を見込む。



瀬戸内海エリア全体へと発展

## 瀬戸内産業芸術祭：実現可能性調査の検証内容及び結果

令和4年度に取りまとめられた「瀬戸内産業芸術祭～Setouchi Art & Industry～」の概要。令和5年度では2026年に初回開催を目指し、実施すべき具体について、5つの部会（オープンファクトリー、交通インフラ、エネルギー、スーパーアプリ、新生宇野港）で議論をおこない、総括委員会にて報告を行った。

### 【コンセプト】

普段の生活を支えるさまざまなエネルギー、マテリアル、ものづくり、食など、日本の産業を、深く知り、その歴史と未来を見ることは、日常を違った視点で見る体験であり、まさに産業観光は芸術といえる。瀬戸内エリアにおける産業、文化、芸術の振興によって、活力にあふれ、個性豊かな地域社会の発展に貢献するとともに、地域の観光を支える取組みをサポートし、国内外から多くの旅行者を惹きつける「世界から選ばれ続ける瀬戸内」を実現する。

【組織】：2024年第二四半期に財団法人と推進委員会の設立予定

### 【初回開催年】

2026年に開催予定を目指す。基本、常時開催の予定。2025年の瀬戸芸とはずらして開催。数年おきにコンセプト、共通テーマを設けて世間へ問いかけをすることも検討。

【目標人数】：15万人→2034年 目標100万人

### 【開催エリア】

初回開催エリアは、宇野周辺～田井～みやま公園の3点を結んだエリアとその周辺を面で構成し、周遊とにぎわいを起こす「玉野モデル」を構築し他へ展開できることを目指す。

### 【参加企業】

玉野市の企業リスト（368社）を作成し、開催エリア周辺の36の製造業に絞り「未来」「現在」「過去」の3種類のカテゴリに分け、特徴、周遊しやすさ立地の用途確認から、最大6～7社参加を目指す。パワーエックス社及び関係者で令和6年4月より企業説明会を実施予定。

参加企業は、開催日・時間など工場稼働優先で調整可能であり、予約制による限定人数の受入なども可。数年に一度程度のイベントの期間限定での参加も可能。

### 【オープンファクトリー】

アーティスト視点によるオープンファクトリーのプロデュースが、新しい産業芸術観光となる。開催テーマによっては、空きスペースにパブリックアートを設置も検討。パワーエックス社より個別に企業へ説明を順次実施。

### 【スーパーアプリ】

瀬戸芸の公式アプリ開発会社と連携し開発予定。基本機能を絞り、オープンファクトリーの入場チケット、予約機能、支払いまでの基本機能の最小限の機能から開発。チケットのパターンを今後議論。また交通システム連携として、循環バスやシェアサイクルの予約～支払いを含める。シェアサイクルの在庫管理はあえて行わないことで、受付で観光客と事業者の会話と交流を作り、荷物預りサービスなどの付加価値提供も検討する。概算開発スケジュールと概算予算を取り纏めた。

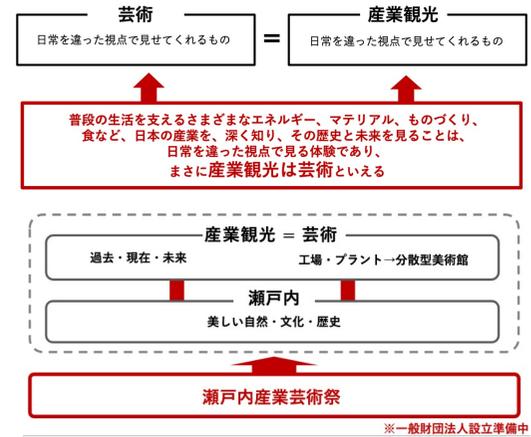
## 瀬戸内産業芸術祭



### モデルケース：Power Base

- PowerXの蓄電池/再エネ事業
- 妹島和世氏による設計
- ミュージアムファクトリー
- 未来の工場見学

瀬戸内エリアにおける産業、文化、芸術の振興によって、活力にあふれ、個性豊かな地域社会の発展に貢献するとともに、地域の観光を支える取組みをサポートし、国内外から多くの旅行者を惹きつける「世界から選ばれ続ける瀬戸内」を実現する。



### 【交通インフラ】

観光客の移動ルートと手段から検討を行い、環境へ配慮した移動手段を陸・海・空それぞれでリストアップを行った。開催エリア検討後に、JR列車やフェリー等にて来られた観光客を、早期に実現できる貸切バス型の「循環バス」とラウンドトリップ型の「シェアサイクル」で周遊させる方法に絞った。さらに瀬戸芸に向け準備検討の「循環バス」を瀬戸産芸でも同様に導入する方向で検討中。これは瀬戸芸と瀬戸産芸の開催時期をずらすことで交通インフラの需要の平準化を目指し、市民の利便性も向上。コストを抑え、かつ利便性も高める運行スケジュールも検討。また、「二次交通としてのシェアサイクルの拡充」を既存サービス業者と連携してサービスの充実を行うことを提案。直島や豊島をベンチマークし、シェアサイクルサービス料金の見直しにより事業者の収益向上の可能性も高いことが判明。

### 【サイネージ】

宇野を起点とした周遊促進のため、これまで必要に応じて整備されてきた宇野駅周辺のサイネージを瀬戸芸/瀬戸産芸のデザインと統一し街全体へ周遊し易いサイネージへ更新も必要であることを提案。検討し、概算開発スケジュールと概算予算を取り纏めた。サイネージのデザインは宇野周辺の再開発に合わせておこなうこともポイントである。

### 【グリーン/エネルギーインフラ】

三点の交通の結線には玉野市が脱炭素への最先端の取組みを体感できるような場所とし整え観光客へPRしていくことを提案。再生可能エネルギーの先進的な発電を手掛ける企業をリストアップ、また、みやま公園をBCP対策も兼ねて脱炭素の取組みを推進していく場所として提案。実施は、玉野市の環境政策に合わせて行う。

### 【宇野港/宇野駅の再開発】

関係者と複数回協議を行い、SANAA 提案の観光客を迎え入れる宇野港として、「短期 2026年瀬戸産芸にむけてのしつらい」「中期 道路線形、建築物、工作物の計画、警察と協議」「長期 エリア全体の公園化、土地の用途変更」の3段階で実施予定。今後、玉野市、岡山県、整備局が連携を取り推進していく。

### 【経済波及効果】

初回開催年間15万人の来場を見込む場合、約30億円の経済波及効果と約300人の雇用創出へ繋がることと試算。

瀬戸芸の地域別訪問者の割合や滞在日数調査から、初年度は同様に近隣から自家用車による日帰り観光客が7割を占めると試算。今後、宇野周辺の再開発と参加企業数の増加に伴い滞在日数が増えていく。

### 【実現ポイント】

今年度議論調査してきたことを実現させるためのポイントとして下記3点が重要である

**A費用対効果向上**：時間・空間の需要を集中させることで稼働を高める

**B機動力向上**：モノ・カネ・ヒトのありものを活用することで機動力を向上

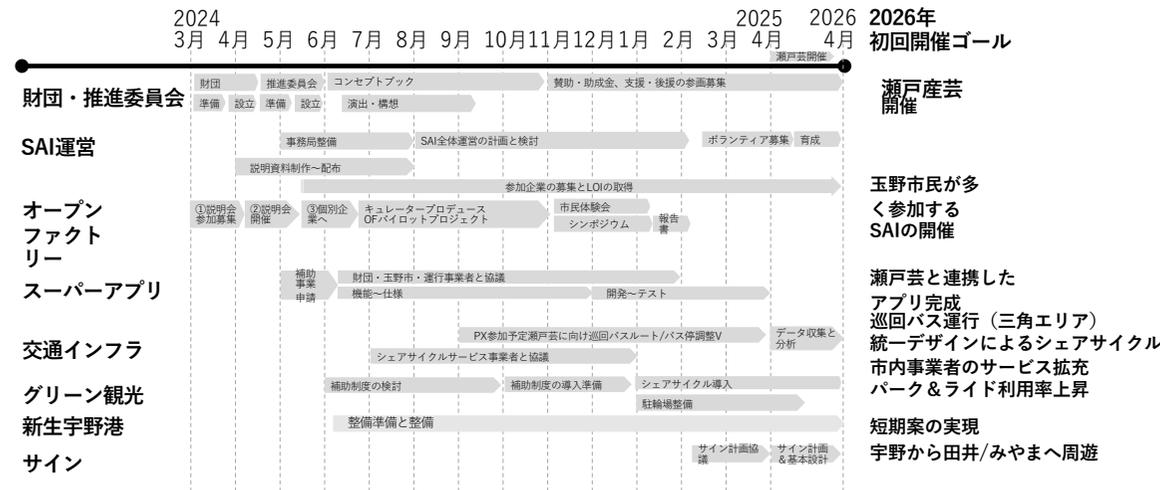
**Cブランド力向上**：デザインに統一感を持たせブランド力を向上

令和6年度は早期に財団法人、推進委員会が立ち上り、瀬戸産芸のパイロットプロジェクトを実施しながら運営の具体化や市民の機運醸成を実施していく。

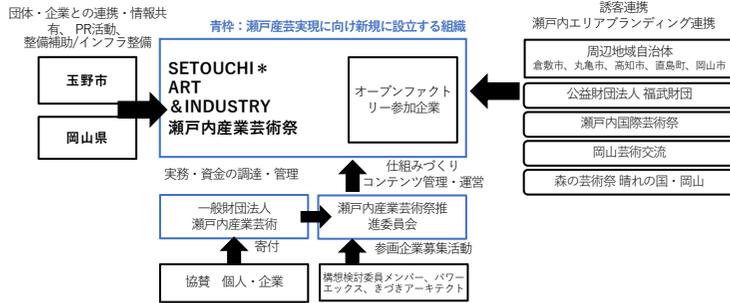
また、瀬戸産芸の象徴となるパワーエックス社のPowerBaseは、2025年の瀬戸芸に参加へ向けて調整。

# 令和5年度 将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成事業 検討結果

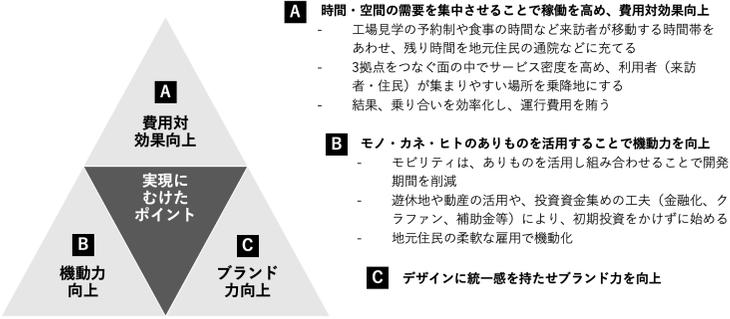
## レガシー形成のスケジュール (案)



## 想定する連携団体・役割



## 実現のポイント



## 経済波及効果

分析結果 (単位: 百万円、人)

	直接効果	第1次波及効果	第2次波及効果	総合効果
生産誘発額	1,887.4	633.5	470.4	2,991.4
うち租付加価値誘発額	1,052.2	364.0	308.6	1,724.7
うち雇用者所得誘発額	555.5	158.1	125.4	839.0
就業誘発者数	238	43	36	317
うち雇用誘発者数	196	37	31	264

費目別消費額での分析 (単位: 百万円)

項目	消費総額	
	宿泊客	日帰り客
消費支出総額	3,037	374
交通費	1,620	90
宿泊費	720	
飲食費	360	81
土産代・買物代	112	68
入場料・施設利用料	225	135

想定人数と消費額の試算用内訳

項目	中国	近畿	関東	中部	その他
【宿泊】	1泊2日 4.5万人	10%	7%	4%	5%
【日帰り】	10.5万人	75,000人	15,000人	15,000人	2,000円
岡山	50%	15,000人	4%	4%	1,800円
香川	10%	15,000人	4%	4%	1,500円
四国	10%	15,000人	5%	5%	3,000円
交通費	車	2,000円	交通費	36,000円	
飲食費	1,800円	宿泊費	15,000円		
土産・買物費	1,500円	飲食費	8,000円		
入場料	3,000円	土産・買物費	2,500円		
		入場料	5,000円		

## 2026年 初回開催

・移動しやすい周遊とエリアを集中的に盛上げるために、宇野港/宇野駅~田井地区~みやま公園の3拠点を結ぶ三角形エリアを中心にスタート

・瀬戸産芸ではオープンファクトリーと港を結ぶ「線」に既存の賑わい拠点をつなげ三拠点の「面」として周遊ルートを基本とする



瀬戸内エリアにおける産業、文化、芸術の振興、「世界から選ばれ続ける瀬戸内」の実現のため、瀬戸産芸は、オープンファクトリー、新生宇野港、交通/エネルギーインフラ、スーパーアプリなどのプラットフォーム作りに取り組みます。



## 瀬戸産芸等従来のガイドアプリの上位互換を目指す機能

- ・ スポット情報の掲載
- ・ 地図
- ・ 経路検索
- ・ オンライン予約 (工場見学・交通)
- ・ NFCタッチ乗車・乗船



## 少ない本数で効果的に周遊や顧客満足を促す循環バス案

観光場所での滞在時間を考慮して運行スケジュールを検討

- ・ 循環バス: 宇野駅→競輪場→PowerBase→深山公園→宇野駅を循環する便を1日5便を想定
- ・ ルート・スケジュールを検討
- ・ パーク&ライドを促し、OF拠点数およびツアー回数増加に合わせて定期バス化およびルートの拡大を想定。市民バスとの連携も検討

## 宇野駅を拠点に周遊できるシェアサイクルを導入案

- ・ 周遊ルートの特性を踏まえ、管理コストの低いラウンドトリップ型を想定
- ・ 拠点としては宇野駅横の活用を想定。民間事業者と連携し進める
- ・ ラウンドトリップ拠点には行政と民間が一体となり旅行者の受け入れ環境を整備



## 来訪者が周遊したくなる、しやすくなる為のサイン計画案

- ・ サインは基本的に動線上の起終点・分岐点、中間点に設置し、利用者のスムーズな移動を促す
- ・ 利用者が認知しやすい統一感のあるサインデザインおよび配置計画
- ・ 盤面の基本表示言語は日英の2か国語表記とし、その他の言語はQRコード等による端末での表示対応や、手持ちマップ等での対応
- ・ 瀬戸内芸術祭/SAIとの連携

